

平成 30 年度 第 1 回 海南市総合教育会議

会 議 録

平成 30 年度 第 1 回海南市総合教育会議

日 時 平成 30 年 8 月 24 日 (金)
場 所 海南市役所 2 階 第 3 委員会室

出席者	海南市長	神 出 政 巳
	教育員会教育長	西 原 孝 幸
	教育委員会委員	露 峯 明 信
	教育委員会委員	川 村 栄 司
	教育委員会委員	中 山 佳 子
	教育委員会委員	嶋 田 敬 子

事務局職員出席者

教育次長	池 田 稔
総務課長	山 香 吉 信
生涯学習課長	井 口 和 哉
学校教育課長	大 和 孝 司
総務課長補佐	新 順 子
学校教育課長補佐	日 高 一 人
海南下津高等学校校長	柳 和 希
海南下津高等学校事務長	東 野 一 之
総務課教育企画係長	平 田 泰 代

次 第

- 1 市長挨拶
- 2 協議事項
(1) 海南市立海南下津高等学校について
- 3 その他

(午後 1 時 00 分開会)

山香総務課長 定刻となりましたので、ただ今より平成 30 年度海南市総合教育会議を開催させていただきます。

本日は、ご多用中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

開会にあたり、神出市長からご挨拶をいただきたいと思っております。

神出市長

皆様、今日は！

本日は、教育委員の皆様方にはご多用の中、総合教育会議に出席を賜り、誠にありがとうございます。

平素から本市教育の充実・発展の為、ご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、平成 27 年 4 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行され、首長と教育委員会が地域の教育課題を協議・調整し、教育のあるべき姿を共有する事を目的に、総合教育会議が設置された所です。

本市においても、平成 27 年 5 月に第一回目の総合教育会議を開催し、これまで、本市の教育に関する総合的な施策を定めた「海南市教育大綱」をはじめ、全国学力学習調査の結果等をもとに、本市の子ども達の学力や生活習慣、いじめ・不登校などの現状、小中学校への空調設備の導入、中学校給食の導入等々について、教育委員の皆様と協議を行って参りました。

本日の会議は、海南下津高等学校について、教育委員会からの要請に基づき開催するもので、同校は平成 19 年 4 月に開校し、本年で 12 年目を迎えております。

同校の現状や課題等について、教育委員の皆様と協議を行って参りたいと考えております。

皆様方におかれましては、忌憚のないご意見をお願い申し上げます、結びに、皆様方の今後益々のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます、開会のご挨拶と致します。

山香総務課長

ありがとうございました。それでは、この後の議事進行につきまして、市長にお願いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

神出市長

それでは、早速、議事を進めさせていただきます。

次第の日程「2 協議事項」の「(1) 海南市立海南下津高等学校について」です。

本校は、平成 19 年 4 月に海南市高等学校と下津女子高等学校が統合し、海南下津高等学校として開校してから、今年度で 12 年目を迎えています。

現在、同校の生徒数は、年々減少しておりますと共に、本市在住の生徒も大変少ない状況になっているとお聞きしております。

それでは、まず初めに、海南下津高等学校の現状及び学校の取組みにつきまして、事務局より説明をお願いします。

東野海南下津高等学校事務長

【1 ページです】

はじめに、「開校の経緯」でございます。

本校の前身である海南市立海南市高等学校は、昭和 30 年に昼間定時制の家庭科女子高校として開校し、同 41 年に全日制となった後、同 48 年に家政科に改称して参りました。他方、下津町立下津女子高等学校は、昭和 33 年に「下津高等学校」という名称で、昼間定時制の家庭科女子高校として開校し、同 38 年に家政科に改編した後、同 41 年に全日制となり「下津女子高等学校」と改称、昭和 46 年に食物科を設置いたしました。平成 3 年には家政科を普通科に改変、また、平成 14 年には普通科をライフデザイン科に改編いたしました。

両校は、平成 17 年度の旧海南市と旧下津町の合併に伴い入学生の募集を停止し、同 19 年にそれぞれの歴史と伝統を受け継ぐ形で、現在の海南市立海南下津高等学校が「食物科と家政科から成る家庭科専門の女子高校」としてスタートいたしました。(本校のこれまでの取組につきましては、後ほど学校長がご説明申し上げます。)

なお、海南市高等学校と下津女子高等学校は、同 21 年 3 月に最後の卒業生を送り出し、共に長い歴史に幕を下ろしました。

次に「現状について」ご説明いたします。

【2 ページです】

ご覧の表 1 は平成 19 年度の開校時から平成 30 年度までの入学者選抜実施と卒業生の状況でございます。

こちらの表は縦軸が入学年度、横軸が、学科名、学級数

及び定員と、入学者選抜状況及び充足率、そして卒業生数と卒業率でございます。

平成 19 年度入学の第 1 期生では合計定員数 120 人に対して、合計欄を見て頂きますと食物科・家政科合せて 97 人受検して、合格者は食物科 40 人、家政科 53 人 合計 93 人、充足率は 78%でございます。

第 1 期生の卒業生は 42 人で卒業率は、45%ございました。

表 1 の一番下、平成 30 年度は合計定員数 120 人に対して、合計欄を見て頂きますと食物科・家政科合せて 37 人受検して、合格者は食物科 30 人、家政科 7 人の合計 37 人、充足率は 31%でございます。

【 3 ページです】

ご覧のグラフは、先ほどの表の出願者数と合格者数をグラフ化したものでございます。最下段の横軸が年度、その上に「1 期生から 12 期生」を記しています。

左側のグラフが「食物科」で、定員 40 人の枠を太い線で囲っております。右側のグラフが「家政科」で、定員 80 人の枠を太い線で囲っております。それぞれグラフの白い部分が出願者数、黄色の部分の部分が合格者数でございます。

このグラフの見方をご説明いたします。食物科のグラフの左端、1 期生をご覧ください。ここでは、40 人の定員に対して、42 人の出願があり、40 人が合格したこととなります。

食物科におきましては、開校以来、しばらくは募集定員である 40 名を満たすことができおりましたが。平成 24・25 年に欠員が生じたのち、平成 28 年度以降、3 年間連続して欠員が生じ、平成 28 年度は定員 40 人に対し合格者が 36 人で欠員が 4 人、29 年度は定員 40 人に対し合格者が 27 人で欠員が 13 人、本年度は定員 40 人に対し合格者が 30 人で欠員が 10 人となっております。

また、家政科におきましては、平成 24 年から、募集定員 80 人に対して入学者が半数を下回るようになり、とくに平成 28 年度からの 3 年間をみると、定員 80 人に対し、平成 28 年度が、合格者が 10 人で欠員が 70 人、平成 29 年度が、合格者が 11 人で欠員が 69 人、平成 30 年度が合格者が 7 人で欠員が 73 人と、割合にすると合格者は、定数の 1 割程度にまで著しく低下しております。

【4 ページです】

こちらのグラフは、表 1 を基にした入学者と卒業者の状況でございます。

グラフの白い色の部分が入学者数、黄色の部分が卒業者数を表しています。入学後卒業に至らず退学・転学等進路を変更する生徒が多いことがうかがえます。

【5 ページです】

これらの背景といたしましては、大学等進学率の上昇に伴う中学生の普通科志向の高まりや、県立高校でも定員に満たない状況等、様々な要因が考えられます。

① 県内の中学校 3 年生の生徒数及び女子生徒数の推移

【6 ページです】

こちらの表 2 とグラフは、県内の中学 3 年生の生徒数及び女子生徒数の推移でございます。

表 2 の上段が県内の生徒数、下段が女子生徒数でございます。横軸は年度です。平成 31 年度から 37 年度までの数値は、現在の中学校 2 年生以下の生徒数による想定数でございます。

下のグラフは、上側の青色の折れ線が県内生徒数、下側の赤線が県内女子生徒数でございます。青色の県内生徒数では、平成 20 年の 10, 207 人から平成 30 年の 8, 553 人まで、10 年間で 1, 654 人減少しております。また、平成 31 年から平成 37 年までの中学校 2 年生以下の生徒数及び女子生徒数の推移をみても、今後も減少が続く見込みとなっております。

② 市内の中学校 3 年生の生徒数及び女子生徒数の推移

【7 ページです。】

こちらの表 3 とグラフは、市内の中学 3 年生の生徒数及び女子生徒数の推移でございます。

下のグラフは、上側の青色の折れ線が市内生徒数、下側の赤線が市内の女子生徒数でございます。

海南市内の生徒数につきましても、平成 20 年の 455 人から平成 30 年の 387 人と 10 年間で 68 人減少しております。女子生徒につきましても、平成 20 年の 219 人から平成 30 年の 10 年間で 21 人減の 198 人となっております。

また、平成 31 年から平成 37 年までの中学校 2 年生以下の生徒数及び女子生徒数の推移をみても、今後も減少傾向となっております。

【8 ページです】

表 4 は、県立高等学校（全日制）の定員数と受検者数の推移でございます。

下はそれをグラフ化したものでございます。

下のグラフを見ていただきますと、青の棒グラフが県立高校（全日制）定員数を表し、緑の棒グラフが県立高校の受検者数でございます。

ご覧のように、平成 28 年度は、県の定員 7,200 人に対し受験者が 7,163 人と欠員が生じており、その後も欠員の生じる年が続いてございます。

その欠員数は 28 年度が 37 人、29 年度が 156 人、そして 30 年度が 335 人と増加してございます。

【 9 ページです】

こちらの表 5 は、本校生徒の通学圏と仮定した、日高から以北の県立高等学校（全日制）の過去 4 年間の定員数・受験者数・合格者数及び欠員数でございます。

表の縦軸は、那賀高校から南部高校までの過去 4 年間で欠員があった高校、横軸は年度及び各年度の定員数・受験者数・合格者数そして欠員数でございます。

欠員数は各学校の定員数と合格者数の差で黄色のマーカーで示しております。

表の最下段の各年度の欠員合計では、平成 27 年度が 115 人、平成 28 年度では 141 人、平成 29 年度では 209 人、平成 30 年度では 332 人と年々欠員が生じている高校及び欠員数が増加しております。

【 10 ページ】

こちらの表 6 と下のグラフは、海南市内の中学校 3 年生の女子生徒の内、海南下津高等学校への入学生の推移でございます。

下段のグラフは、ピンクの棒グラフが市内の女子生徒数、青の棒グラフが市内出身の入学生数です。平成 19 年の開校以来、毎年概ね 10 人前後が入学していましたが、平成 28 年度以降著しい減少を見せ、この 3 年間は毎年 3 名となっております。

【 11 ページです】

こちらの表 7 は、本校入学生徒の出身地を年度別に表にしております。

最も多いのが、和歌山市からの入学生で、平成 19 年度では 59 人おりましたが、平成 30 年度は 27 人と減少しております。しかしながら、平成 30 年度では入学者全体の

36人の75%を占めております。

海南市内からの入学者は、平成19年度の開校時、入学者全体93人中10人、約11%でしたが、平成28年度から3年連続で入学者が3人と大きく減少し、平成30年度では入学者全体36人の約8%となっております。

【12ページです】

こちらの表8とグラフは、先の表7から海南下津高等学校入学生（合計）と、海南市内からの入学生を抜き出したものでございます。

グラフの、緑の棒グラフが本校入学生で、オレンジ色の棒グラフが海南市内からの生徒です。

【13ページです】

こちらの表9は、平成21年度から平成29年度までの各年度における本校卒業生の進路状況をまとめたものでございます。縦軸は食物科と家政科に分かれており、さらにそれぞれの科ごとに進学と就職に分けております。進学・就職それぞれの人数の中で、食物科では「調理関係」及び家政科では「生活産業関係」を内数で示しております。

横軸が卒業年度で、今年3月の卒業生は平成29年度卒業生となります。

食物科生徒の食物科生徒合計欄の右端の合計欄を見ていただくと、これまで、253人の食物科卒業生の約35%の89人の生徒が調理関係の進路に進み、残りの約65%の164人は調理関係以外の進路に進んだこととなります。

また、家政科におきましても、家政科生徒合計欄の右端の合計欄を見ていただくと、これまで226人の家政科卒業生の約43%の99人が生活産業関係の進路に進み、残りの約57%の127人は生活産業関係以外の進路に進んだこととなります。

【14ページです】

最後に海南下津高等学校の現状をまとめますと、一つは、「入学者数の減少」でございます。

入学希望者の減少にともない、入学定員に著しく満たない状況が、家政科はもとより、食物科でも見られるようになって参りました。とくに、平成28年度以降は、この背景として、県立高校の受検者数に対する入学者枠数の影響があるものと思われまます。

ふたつ目は、現在、本校には8市3町から生徒が通学し

ておりますが、開校以来、和歌山市内を含め周辺地域からの生徒が大半を占めており、海南市内中学校からの入学希望者が極端に少ない状況でございます。

三つ目は、日々変化する生活関連産業に対応するには、より専門性の高い知識及び技術が必要であり、食物栄養学や家政学など、より高度な知識を学べる大学や専門学校がある状況を考えますと、本校で学んだ専門性が、高校卒業時において必ずしも十分生かされていると言い難い状況でございます。

以上、報告させていただいた内容につきましては、教育委員会でも報告し、ご協議いただいております。海南下津高等学校の現状についての説明は、以上でございます。

柳海南下津高等学校校長

「海南下津高等学校の取組」についてご説明いたします。

(1) 家庭科専門高校としての「特色ある学校づくり」

本校は食物科と家政科からなる家庭科の専門高校で、本県唯一の公立女子高校です。このことを踏まえ、「地域に育てられ、地域に貢献する、衣食住とヒューマンサービスにかかわる生活産業を担う「よき職業人（スペシャリスト）」の育成」を本校の使命と考え、これまで「特色ある学校づくり」を進めて参りました。その最大の特徴は、地域の様々な世代の方々との交流を活かした「体験・参加型の学習や実習」を数多く取り入れた「学び」の追求です。

例えば、食物科の調理実習では、海南海草調理師会から毎月7～8名のプロの専門調理師の方々を講師としてお招きし、各グループに1名の直接指導により、生徒達は、「日本料理」「西洋料理」「中華料理」「和菓子」などのテーマに基づいて、調理の技と心を学びます。

また、「集団給食」という授業では、約100食の「海南下津弁当」を作り、市長様や市職員の方々にもご賞味いただいております。年に約20回、2,000食を超えるお弁当を作っています。この「海南下津弁当」は、毎年「海南市民健康まつり」や「下津町総合文化祭」などの地域行事等でも販売させていただいております。市民の方々の好評をいただいております。

家政科におきましては、市内保育所を訪問させてい

ただき、幼児を対象とした「読み聞かせ」や「集団遊び」等の実践的な保育実習に取り組んだり、市内高齢者施設を訪問させていただいたりしています。なお、県の「介護職員研修」にて、これまで延べ45名の生徒が「初任者研修」を修了し、介護職員の資格を取得いたしました。

そのほか、「和裁マイスターによる実技講習」、「テーブルマナー講習」、「飲食店や各種事業所、福祉施設での校外学習やインターンシップ」、「さをり織り体験学習」や、学校家庭クラブによる「高校生カフェ」の開催、「保育所訪問」、「図書館でのよみ語り活動」など、地域の方々との交流を通して学ぶ多種多様な「体験・参加型学習」を取り入れております。

なお、食物科は、卒業時には全員に「調理師免許」を取得させております。

(2) 課題意識をもった自発的な「学び」へ

本校は、開校当初、生徒指導上の困難な課題を抱えた生徒が多く在籍する「教育困難校」の一つでありました。今日もやはり、同様の生徒や特別な支援を必要とする生徒が一定数在籍しており、その指導に多くの労力を要しているという現実がございます。それでも全体としては、真面目で前向きな生活態度が尊ばれる雰囲気定着し、目標を持って学習や活動に取り組める生徒が多数となるなど、学校の様相を大きく様変わりさせることができました。

その一番の推進力となりえたのは、「学力向上」への教員一丸となった「学び直し」等の取組であると考えます。本校生徒の多くは、義務教育段階での基礎学力の定着が充分でなく、そのことが自尊感情の低下や、学習面や学校生活における意欲の喪失に繋がっている面が否めません。そこで、本校では、「少人数授業とチームティーチングの展開」を中心に、「本校独自の学力診断テストの実施」や「全教員による基礎力補習」、「7限目授業」等々の改革や取組を推進し、「わかる授業」の展開と「学び直し」に取り組んで参りました。直近では「ICT機器を用いた授業の工夫」に力を入れております。

二番目に、徹底した生徒理解に基づく、一人ひとりに寄り添った「生徒支援」の展開です。本校には、不登校

経験はじめ、メンタル面や発達面での課題、虐待や貧困など家庭的な問題を背負った生徒が多く在籍しております。また、これらの生徒に限らず、全ての生徒の日常的な悩みや不安に寄り添い、丁寧で肌理細かい関わりを大切にしたいと考えております。一人ひとりの生徒についての「パーソナルシート」の作成、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの力を借りながらの保護者や家族を含めた教育相談、医療・福祉など各方面の関係機関との連携に尽力し、組織的・機動的な生徒支援に努めております。

第3に、生徒会活動と学校家庭クラブ活動を中心とした「自主活動」の育成です。生徒会専門部活動など学校生活や行事の充実をめざす活動だけでなく、「花いっぱい運動」や「地域清掃活動」、「高校生カフェ」、「保育所・介護施設訪問」など、生徒リーダーを中心に、地域と連携した取組を重視して参りました。

家庭科専門高校に学ぶ生徒として、それぞれが何らかの課題意識をもった学びや活動に自発的に取り組めるよう、一層努めて参りたいと考えております。

(3)「活力ある学校生活」の実現めざして

本校では、開校以来、「定員割れ」が慢性的に続いており、一定数の入学者の確保は焦眉の課題であると言わざるを得ません。

そこで、本校の取組や学校改革の成果を広く周知することが重要と考え、中学校への「マンスリータイム（学校新聞）」の配布や「リーフレット・ポスター」の作成、各種資料を持参しての中学校訪問、地方紙等への掲載などの手段により、情報発信に努めて参りました。その結果、中学校教員など教育関係者と本校周辺の地域住民には、本校の取組等について一定の認知をいただけているように思われますが、市民県民の方々に広く周知できているとは言いがたい状況にあります。

活力ある学校生活の実現には、一定数の志願者の確保は不可欠の課題であり、本校の実像について、更なる情報発信に努めて参る所存でございます。

神出市長

事務局の説明が終わりました。続きまして、この件について、教育委員会での協議の経過を西原教育長より説明していただきたいと思っております。

西原教育長

平成 19 年開校以来、本年で 12 年目を迎えることになる海南下津高等学校の教育委員会での協議の経過として、概要を説明させていただきます。毎年、入学検査の結果、次年度の入試要項の検討、就職・進学状況の報告の際、学校運営、学校訪問の際について、教育委員会議の中で取り上げて協議をしております。

平成 19 年度から、平成 23 年度の 5 年間は、定員 120 人に対して、充足率の平均は、71% でした。平成 24 年度の入学検査の結果では、充足率は 62% に低下し、学科別では、食物科の入学生が定員 40 人に対して入学生が 39 名、家政科は定員 80 名に対して入学生は定員よりも大きく下回り、34 名となりました。

この結果を受けて、平成 24 年 8 月の教育委員会定例会において、開校以来 5 年間の海南下津高等学校の学校運営について、出願者数と入学者数、卒業や進路状況、海南市内の入学生徒数、生徒の学習の状況、生徒指導や学校の取組などの報告を受け、協議を行いました。以後、平成 24 年度に 6 回、平成 25 年度も 6 回、計 12 回にわたって教育委員会において協議を行ってきました。協議内容については、生徒の減少など、分析と課題、今後の学校運営の問題、入学者獲得のための広報活動など幅広く議論を重ねてきました。さらに、海南下津高等学校の在り方についても、議論し、また、今後の入学者の状況、学校運営の状況などを検討し、場合によっては閉校も止む無しということを考えなければならないという議論もしてきました。

その後も教育委員会としては、入学検査の動向について注目しておりましたが、平成 26 年度については、入学者が少し増えましたが、平成 24 年度から平成 27 年度の 4 年間につきましては、定員 120 名に対する充足率は、58% となり、当初開校から 5 年間の充足率に比べますと、さらに 10% の低下となりました。

教育委員会では、平成 24 年、平成 25 年度以降も入学検査の結果、進路結果などの報告、入学検査の実施要綱の検討、学校運営状況、今後の展望などについて、今後の出願者、入学者の動向を特に注視しながら、協議してまいりましたが、平成 28 年度、平成 29 年度、平成 30 年度の 3 年間続けて、入学検査の結果、入学生の人数は、開校以来大きく減少し、食物科、家政科、両科共に、120 人の定員を大きく下回り、充足率は、30% までに低下しました。

平成 28 年度の入学生は、食物科で、36 名、家政科で 10 名、平成 29 年度の入学生は、食物科が 27 名、家政科は 11 名、平成 30 年度の入学生は、食物科で 30 名、家政科は 7 名で、定員 120 名の所、入学生が 37 名となりました。さらに、海南市内在住の入学生はこの 3 年間に於いては、各年度毎に 3 名という結果になりました。

この 3 年間の状況をもとに、平成 30 年 6 月、7 月、8 月の教育委員会定例会において、以前から教育委員会議で協議を続けてまいりました内容を踏まえて、さらに協議を重ね、今後、教育委員会としては、有識者や各方面の方々を委員とした海南下津高等学校在り方審議会を設置し、海南下津高等学校の在り方を閉校も含めて総合的に審議していただき、報告をいただいたのち、その後、さらに協議を行っていくことを決定いたしました。

これらの経過を踏まえ、総合教育会議において、この件について協議をしていただくため、この度、市長あてに、海南下津高等学校について、現状および課題等について総合教育会議の開催を要請させていただきました。市長には、海南市総合教育会議を早々に開催していただき、お礼を申し上げるとともに、海南市立海南下津高等学校の現状及び課題等について協議をしていただきたくよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

神出市長

ありがとうございました。ただ今の事務局、教育長からの説明について、どのような事でも結構ですので、皆様からご意見・ご提言等をお願いできればと思います。

まず、中山委員、如何でしょうか？

中山委員

中学 3 年生で、自分の長所や短所を知って、将来の進路を決めることが望ましいのですが、こんな仕事をしたいという具体的な進路先がまだ決まってないとよく聞きますが、中には将来の夢を決めている生徒もいて、それに関連した学科選択をしているという声も聴きます。

将来の進路が決まっていない生徒は大学や専門学校への進学を見据え、とりあえず、普通科を希望する生徒が多いのが現状であると思います。進路選択で、専門学科に進学した場合、卒業の進路先も決まってきます。何も考えずに進んでしまい、こんなはずではなかったと思う場合もあると思います。専門学科の高校に進学するこ

とによって、基礎、基本の学習に加え、専門技術、専門知識、実習の機会が挙げられると思います。資格取得や、専門技術の習得などは専門学科の高校ならではの学習であると思います。

食物科や家政科を生かしていくのであれば、全体的なレベルを向上させないと入学希望者の増加は、難しい状況で、以前からも厳しい状況を協議してきていますが開校 12 年目を迎え、海南下津高等学校の今後について、どのようにしていくべきか、考える時期に来ていると考えています。

神出市長

中山委員ありがとうございます。続いて、嶋田委員、よろしくをお願いします。

嶋田委員

先ほど、海南下津高等学校からの説明の中にもありましたが、同校は近畿で唯一の公立女子高校で、食物科においては、実習や体験が充実しており、卒業時には調理師免許が取得できます。家政科では、保育、介護、被服など様々な分野の学習ができ、自分に合った仕事などが見つけられ、また、様々な検定試験に挑戦できるなど、それぞれの特色があります。しかし、入学希望者や卒業までに至る厳しい状況であります。

学校側におきましても、以前から、いろいろと生徒数増に向けた工夫・努力をされておりますが、ここ数年、生徒数が極端に少なく、海南市立の高等学校でありながら、海南市からの入学者が極端に少なく、ここ 3 年間は 3 人ずつなっているという現状を考えますと、たくさんの生徒による活気のある学校運営が難しくなっているのではないかと思います。一方、小人数で、生徒と教師の関係も近く、目が届きやすいく、良いという評価もされています。

このような中、同校の在り方について、学識経験者等、第三者的なお立場からのご意見・ご提言等をお聞きしたいと考えております。

神出市長

嶋田委員ありがとうございました。続いて、川村委員、よろしくをお願いします。

川村委員

先ほど教育長からも説明がありましたが、数年前から、海南下津高等学校について、教育委員会や高等学校からの説明を受けて、協議を重ねてまいりました。

私は、2つの視点からこのことを考える必要があると思います。まず、一つは、高等教育という視点で考えてみますと、数年にわたって、募集定員を大きく下回ることが続いていることが、問題点である。さらに、退学、休学、転学する生徒の比率が他の県立高校よりも高いという点、また、それ以外にもたくさんあるのですが。このような状況が続いていることが高等学校として学校の艇をなしていないのではないかということ。ここ数年そのように私は感じます。

2点目の視点としては教育の場という視点で考えると近年は基礎学力の定着が低い生徒の進路先として、受け皿的な存在になっているのではないかということ。その中には、生活環境の問題を持った生徒や不登校の生徒等、いろいろな問題を抱えた生徒がいますが、その生徒たちに対応した教育の場となりつつあるのではないかと考えます。

現状の高等教育としては、いろいろな面で、教育困難校と言えるのではと私は考えています。しかし、一方、中学現場では、中学3年生の進路決定では、低学力や、課題を持つ生徒や保護者も、ほとんどの家庭では、進学を望む家庭が多いのが現状であり、中学校の進路指導の立場では、海南下津高等学校の存在は、大変ありがたいというのが現状であり、もし、海南下津高等学校が無くなれば、受験を希望する生徒の進路選択の中が狭くなるので慎重に考えなければならない。

これらの事を考えますと、今後の海南下津高等学校の在り方について考えると、結論出すことは、私は難しいと思っています。学識経験者等、第三者的なお立場からのご意見・ご提言等をお聞きし、その上で、教育委員会において協議してまいりたいと考えております。

神出市長

川村委員ありがとうございました。続いて、露峯職務代理、よろしく申し上げます。

露峯職務代理

海南下津高等学校の現状について、これまで学校現場におきまして、生徒増に向け、いろいろ工夫をされ、学校運営についても努力されていることがうかがえます。

先生方のご努力にもかかわらず、ここ数年、海南下津高等学校への入学者が非常に少なくなっていることは、

私は非常に気になるところである。食物科はもとより、家政科に至っては、定数 80 人に対し、ここ数年 10%になっている状況で、委員の皆様方からも、様々な意見やご指摘をいただいているとは思いますが、昨今の大学の進学率の向上等による生徒の普通科志向の高まりを受け、専門学科のニーズが低くなっていることや、県立高校の定員が充実され定員枠に余裕がでて、ここ数年、県立高校でも欠員がでている状況が背景にあると思います。

本校の前身である海南市立高等学校、下津町立下津女子高等学校は共に地元の女子教育の充実を熱望され、創立されたと聞いています、そんな中で、市立の高等学校であるのに、市内在住の生徒がここ数年一割にも満たない状況が続いているということについて、市立の高校として経営していく必要があるのかどうかを考える時期に来ていると感じます。

こういったことから、教育委員会といたしましても、学識経験者等の第三者で組織する審議会等を設置し、さまざまなお意見をいただいて協議をする必要があると考えます。

神出市長

露峯教育長職務代理ありがとうございます。続いて、西原教育長、よろしくお願いします。

西原教育長

海南下津高等学校は、平成 19 年に海南市立高等学校と下津町立下津女子高等学校が統合し、現在で 12 年目となります。前身であるどちらの高等学校も戦後の高等学校教育の高まり、特に女子教育の充実を熱望され開校されたと聞いております。

しかし、現在に至っては、高校への進学率が向上し、義務教育に近くなってきているとの議論もされています。その中で、この両校は平成 17 年の海南市、下津町の合併の際に合併協議会において、議論され 2 校を 1 校に統合することが確認され、その後、統合再編について懇話会が設置され、現在の海南下津高等学校として平成 19 年に開校した経緯があります。

統合前の 2 校の時代から学科の改編、海南市立高等学校は家政科のみですが、下津女子高等学校は、普通科に改編しましたが、入学者は大きく増加はしなかった。

また、そのようなことも踏まえて、統合後、学校の中で

も、平成 24 年、平成 25 年には改革委員会等も設置し、このような状況について、議論を重ねてきました。

しかし現状は、中学 3 年生の進路選択として、さらに、この海南下津高等学校を志望してもらうことは難しく、なかなか入学者も増えていないことは現実です。1 点は、高等学校の存在意義を考える際には、県下全体の中で考えることも重要であり、県内の高校の状況もやはり、十分検討しなくてはなりません。

先ほど川村委員さんからもこの学校に来る生徒の進路保証をどうしていくかということも非常に重要な事だと言われましたが、人数が少ないから閉校してもよいということではなく、選択肢が他にあるかどうかということが重要であります。その選択肢は、高等学校の現在の状況で見えますと、通信制の高等学校や、県立高等学校の定員の状況を見ますと、ある程度、定員は充実していると考えております。

今までも何回も、教育委員会の中では協議されてきましたが、先ほどからの委員の皆様方からも意見があったように、厳しい学校の状況を踏まえ、今後の海南下津高等学校の在り方について、学識経験者をはじめとする方々で組織する審議会を設置し、広く意見を頂戴し、今後の方向性を見出したいと考えます。

神出市長

西原教育長、ありがとうございます。

ただ今、皆様からいただききましたご意見等をお聞かせいただく中で、海南下津高等学校の現状は大変厳しいものであると、改めて認識させて頂いたところであります。

ところで、教育委員の皆様方におかれましては、海南下津高等学校への学校訪問、体育祭、文化祭、卒業式等に参加され、生徒の現状を目の当たりにされていると思われませんが、現在の海南下津高等学校の生徒の実態について、どのような事でも結構ですので、皆様からお聞かせいただければと思います。

まず、中山委員、如何でしょうか？

中山委員

学校に訪問し、授業状況を拝見すると、全体的に落ち着いてよくなってきていると感じます。先生と生徒の距離が近く、中には、学習意識の高い生徒もいると感じました。

また、毎年、文化祭へも行かせていただいておりますが、

家族や、地域の方々が多く訪れ、生徒の気分も大変向上していると思われ、生き生きしており、良くなっていると思います。PTA役員の方々も和気あいあいとした様子でお店を出されているのも、よい雰囲気であると感じました。生徒の作品も立派に作成されており、また、市のイベント等でも、お弁当販売やカフェ等、本当に張り切っている姿が見受けられ、学校の取り組みは大変良いと感じました。

神出市長

中山委員ありがとうございます。続いて、嶋田委員、よろしく申し上げます。

嶋田委員

一年を通して、何回か学校を訪問させていただいた際には、全体的には服装、頭髪、化粧に関しても落ち着いており、普通の高校生らしくなっているように感じています。授業状況も比較的落ち着いて、授業が聞き取れない状況等は感じられず、先生と生徒の距離が近く、目がいき届きやすい、授業が受けやすい状況になっております。

文化祭についても食物科を生かして、おいしいお弁当や料理の提供をされていて、また、書道や絵画についても素晴らしい作品がたくさん展示されています。

校長先生はじめ先生方が、生徒全員が卒業し、進学、就職できるように熱心に取り組まれている姿も感じました。

生徒数が少ないという意味では、少し活気がなく寂しいと感じられるところもありますが、文化祭等においては、地域の方々がたくさん来られ、盛り上がっているのだと感じました。

神出市長

嶋田委員ありがとうございました。続いて、川村委員、よろしく申し上げます。

川村委員

40 数年前に海南市内の中学校で教職についていたころに進路指導にもかかわっていましたが、その当時は、海南市立高等学校、下津女子高等学校は共に子どもたちは意欲に燃えて進学していったと感じています。

学力が不足している生徒は、自分の希望している学校にはなかなかいけませんでしたが、それから、50 年ほどたち、現状の教育の根っこにある問題について、中学生で早くも学力が足りないからリタイアしていく、人生をあきらめてしまうような世の中の風潮もありますが、その中で現状を言いますと、先ほども言いましたが、教育困難校ではないかと言わせていただきましたが、その子供たちを、学

校の現場ではよく指導していただけているなどは思っています。

社会で通用しないことは、学校でも通用しない。このことは、どこの義務教育でも、当たり前のように指導しているが、子どもの状況によっては、同じように通用しない学校はあると思います。

現在の校長先生になってからは、卒業式等では、最近は、携帯を触っている生徒もなく、卒業式は落ち着いています。しかし、教育をするということは、何かを学びたいという意欲のある生徒を相手にすることで通常教えるということはそのようである。

学ぶ気持ちが薄い生徒を指導することは難しい。それは、海南下津高等学校の現状であると思われる。この点については、部活動であったり、体験学習であったり、そのほかいろいろ努力をかさねていただき、意欲を持ってされ、成果を出している生徒もいることも見受けられる。

全体に、最近では生徒の状況自体はよくなってきています。

神出市長 川村委員ありがとうございます。続いて、露峯職務代理、よろしくをお願いします。

露峯職務代理 以前、はじめて訪問させていただいた頃より、ここ数年、生徒は落ち着いてきており、態度もよくなりました。みんなで合唱するところも、しっかり歌えており、地元の評判も変わってきており、よくなってきている。よくなってきているのに、入学検査の現状や数字に関しては変わっていない。入学者はどんどん減ってきている。努力が周りの評価につながっていない。先ほど説明があったように、県立高等学校の定員枠が充実して減っていないことも背景にあると思います。学校自体はどんどん変わってきており、良くなってきていますが、そこらが少し残念に思います。

神出市長 露峯教育長職務代理ありがとうございます。続いて、西原教育長、よろしくをお願いします。

西原教育長 海南市在住の生徒が少なくなってきました。このことが、この海南市立高等学校の存在意義ということを考えて際に、難しくなってきたのが現状です。家庭的に厳しい家庭もあり、経済的な状況だけが厳しいだけではなく、

いろいろな意味で家庭環境が厳しい生徒も何人かいて、先生方も一生懸命指導してくれているなかでも、続かなくて、退学していく生徒もいる。先ほどから言われているように、かつての生徒に比べると、現在の生徒の様子は落ち着いてきています。しかし、なかなか入学希望者の増加にはつながっていない。調理師免許が取れることについても、かつては大きなメリットであったが、現状を見てみますと、調理師免許を取得しても、就職に大きなメリットになることも少なく、資格としての有効性が低くなってきている。非常に厳しい現状の中で、なかなか良い面が反映できないということが、残念であると考えます。

神出市長

西原教育長、ありがとうございます。

皆様に現在の海南下津高等学校の生徒の実態をお聞かせいただきました。海南下津高等学校の出願者や入学してから卒業に至る状況、さらに地元海南市出身の生徒数のあまりにも少ない状況、県立高等学校の定員数と入学者数、今後の中学3年生の推移、生徒の普通科志向と食物科、家政科のニーズなど、この12年間の経緯を踏まえますと、本日の総合教育会議での教育委員の皆さまからの意見や協議にありますように、海南下津高等学校の今後の在り方について、一定の方向性を打ち出していく時期に来ているのではと私も考えております。西原教育長をはじめ皆様のご意見の中にもありましたが、今後の同校の在り方を考えていく上で、学識経験者等から広くご意見を頂くため、審議会を設置していただき、海南下津高等学校の今後の在り方について、本日の総合教育会議で共通理解を図れたと考えますが、教育委員の皆様、よろしいでしょうか。

全委員

(異議なし)

神出市長

それでは、そのように今後、進めていただきたいと存じます。

それでは、続きまして、次第の日程「3 その他」でございますが、教育委員の皆様から何かご意見等はございませんでしょうか。

(意見なし)

神出市長

事務局から、他にないですか。

全委員 (意見なし)

神出市長 それでは、これもちまして、平成 30 年度第 1 回海南市総合教育会議を閉会いたします。

(午後 3 時 20 分 閉議)